表１　食糧用小麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総 需 要 量	対前年度比
平成19	569	95%
20	548	96%
21	560	102%
22	555	99%
23見込み	574	103%
24見通し	561	98%

１－２　国内産食糧用小麦の流通量

⑴　国内産食糧用小麦の供給量（当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡された数量）

平成24年産の国内産食糧用小麦の供給量は、平成23年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成24年産の作付予定面積に、10ａ当たりの平均収量(注1) 388kgを乗じ、さらに、食糧用供給割合（96.9%）(注2) を乗じて、78万トンと見通します（表２）。

（注１）　過去７か年（平成16年産～平成22年産）の10ａ当たりの収量のうち、最高及び最低を除いた５か年の平均値（都道府県別）を平成23年産の都道府県別の作付面積で加重平均したもの（以下同じ。）。

（注２）　当年産のうち、生産者から実需者に引き渡された割合。平成24年産については、平成21年産～平成23年産の平均値である（以下同じ。）。

⑵　国内産食糧用小麦の流通量（前年産と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通した量）

平成24年度の国内産食糧用小麦の流通量は、平成24年産の国内産食糧用小麦の供給量に、過去の供給実績から見通される年度内供給比率(注3) を乗じ、さらに、平成23年産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、73万トンと見通します（表２）。

（注３）　当年産のうち、当年度内に生産者から実需者に引き渡された割合。平成23年産及び平成24年産については、平成20年産～平成22年産の平均値である（以下同じ。）。

表２　国内産食糧用小麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	食糧用小麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成19	87	41	47.0%	46
20	84	38	44.6%	47
21	64	30	46.5%	34
22	53	25	46.1%	29
23見込み	69	32	45.7%	38
24見通し	78	36	45.7%	
		24年度流通量見通し		73

注：１）国内産食糧用小麦の供給量は、は種前契約に基づき、生産者から需要者に引き渡された数量である。

２）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

１－３　米粉用国内産米の流通量

平成24年産の米粉用国内産米の取組計画認定数量は、近年の米粉用米の取組の増加傾向を踏まえ、平成20年産から平成23年産までの新規需要米の取組計画認定数量を用いてトレンド（回帰式）で算出し、5.4万トンと見通します。

平成24年度内の流通量は、新米の出回りや実需者の取組意向等を考慮し、平成23年産１万トン、平成24年産４万トンとして、５万トンと見通します（表３）。

表３　米粉用国内産米の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	米粉用米の取組計画認定数量 ①	24年度内出回り比率 ②	米粉用米の24年度流通量 ①×②
平成20	0.06		
21	1.3		
22	2.8		
23	4.0	25.0%	1
24見通し	5.4	75.0%	4
	24年度流通量見通し		5

資料：新規需要米取組計画認定結果（農林水産省調べ）

注：出回り比率は、新米の出回り時期を踏まえ、前年産が当年４～６月、当年産が７月～翌年３月までとして算出。

１－４　外国産食糧用小麦の需要量

平成24年度の外国産食糧用小麦の需要量は、総需要量561万トンから国内産食糧用小麦流通量及び米粉用国内産米流通量78万トンを差し引いて483万トンと見通します（表４）。

１－５　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

平成24年度の備蓄目標は、93万トンとします（表４）。

なお、民間が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分については、国が保管料を助成します。

１－６　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成24年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量から備蓄数量の減少分を差し引いた478万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき、行います。